

**2025年度
RRI-SIG10**

**業務視点からの
DX実現コミュニティ
(DRC)**

活動報告

本SIGの歩み

経緯	18/10-23/07
----	-------------

第Ⅰ期	23/10-24/03
-----	-------------

第Ⅱ期	24/10-25/03
-----	-------------

第Ⅲ期	25/10-26/03
-----	-------------

第Ⅳ期	26/10-27/03	PR
-----	-------------	----

自己紹介

宇野澤庸弘/ウノザワツネヒロ

70/80年代	国産電子計算機会社	基本ソフト（OS・ネットワーク）開発
90年代	外資系企業	ネットワークOS&関連製品
2000年代	外資BPM会社	BPM/BPManagement 製品
2012年～	BPM系 業務コンサル	業務可視化・PDCA・RPA・DX

しかし **DX**：中々進まない



- ・ IT技術偏重
- ・ 業務視点/現場視点の欠落
- ・ 範囲が超広い
- ・ 継続が必要
- ： 実行・経験が必須
- ： 現場実践が重要（個人・組織）
- ： 個人・組織・経営・社会
- ： PDCAと型（手法）

経緯

18/10-23/07

■18/10 RRI主催の技術説明会で

講演：「BPM：業務プロセスはDXの第一歩」

■23/7 DRC/DX実現コミュニティ活動の気運
実現＝実行＋実践

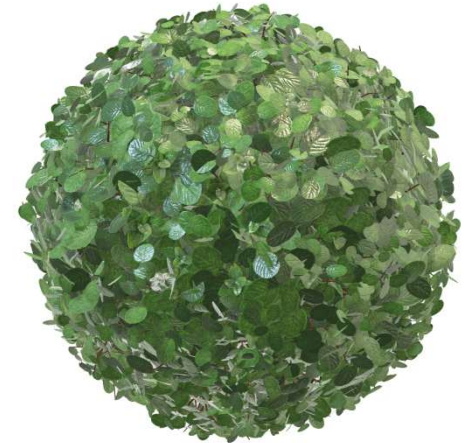
23/9 事務局 DRCの開始公開とメンバー募集

23/10 DRC第Ⅰ期 第一回開催

業務視点からの

DX実践コミュニティ（DPC）

企画書案



DX実践コミュニティ
: DX Practice Community
: DPC

230911・230930

宇野澤庸弘 (株)BPM実践企画

DX実践コミュニティ：DPC開設の趣意

**DXで困っている人、悩んでいる人・・・、 集合！
DXと一緒に考え、現場から実践しよう！**

- DXに携わっていて困っている人・悩んでいる人のコミュニティ
- DX活動の現場定着のために、現場視点からの活動コミュニティ
- メンバーは協会会員から募集し、外部知見者の参加も適宜

4. スコープ^o

**DX実現は短期で成るものではなく、漸次成長、Endlessの継続成長。
また、関連事項も関連関係者も多岐にわたり、非常に広汎なものである。
そこで本DPC活動も継続実施を考える。**

そこで、本セクションで2つの視点からの「スコープ^o」を示し、進めていく。

1. 本DPC内 活動内容の継続成長

- Stage-1 : 本活動の検証 (PoC) ……2023年度
- Stage-2 : メンバー実践拡大・知財の質量強化と活用
- Stage-3 : 類似コミュニティとの横連携・知財強化と活用
- Stage-4 : 企業変革・事業創造

注) 知財 :

DPCの活動テーマで作成された
情報と人材

2. 類似コミュニティ間連携

- Stage-1 : 各コミュニティの知財の共通化
- Stage-2 : 知財のOpen化

第 I 期

23/10-24/03

第Ⅰ期 23年度 開催日程と活動内容

#	開催日		10:00			11:00		
1	231018	水	Prg-1. 各自 ①自己紹介 ②DX実践状況と課題発表				Prg-3.DXの定見	
2	231110	金						
3	231201	金						
4	231222	金	Prg-2.課題リスト作成と 深堀認識共有化				Prg-5. Prog-3・4議論から 新課題発生と 深堀認識共有化	
5	240112	金						
6	240202	金						
7	240216	金	Prg-4.DX実践の常識				Prg-6.新24年度DX実行方針の発表	
8	240308	金						
9	240329	金						

DXの基本定見

目次

0. DXの定義

1. 業務

業務階層構造図

業務可視化

2. 人・組織

業務のPDCA

3. 全社展開

DX実践のPDCAステップ

DX全社展開のステージ

DX推進リーダとDX推進組織

スモールスタート

■ 定義

DXとはデジタル技術で業務・事業・企業の**改善/改革/創造**を実現する事で、それは**企業組織文化の変化**をも必要とする。

1. 業務 業務階層図

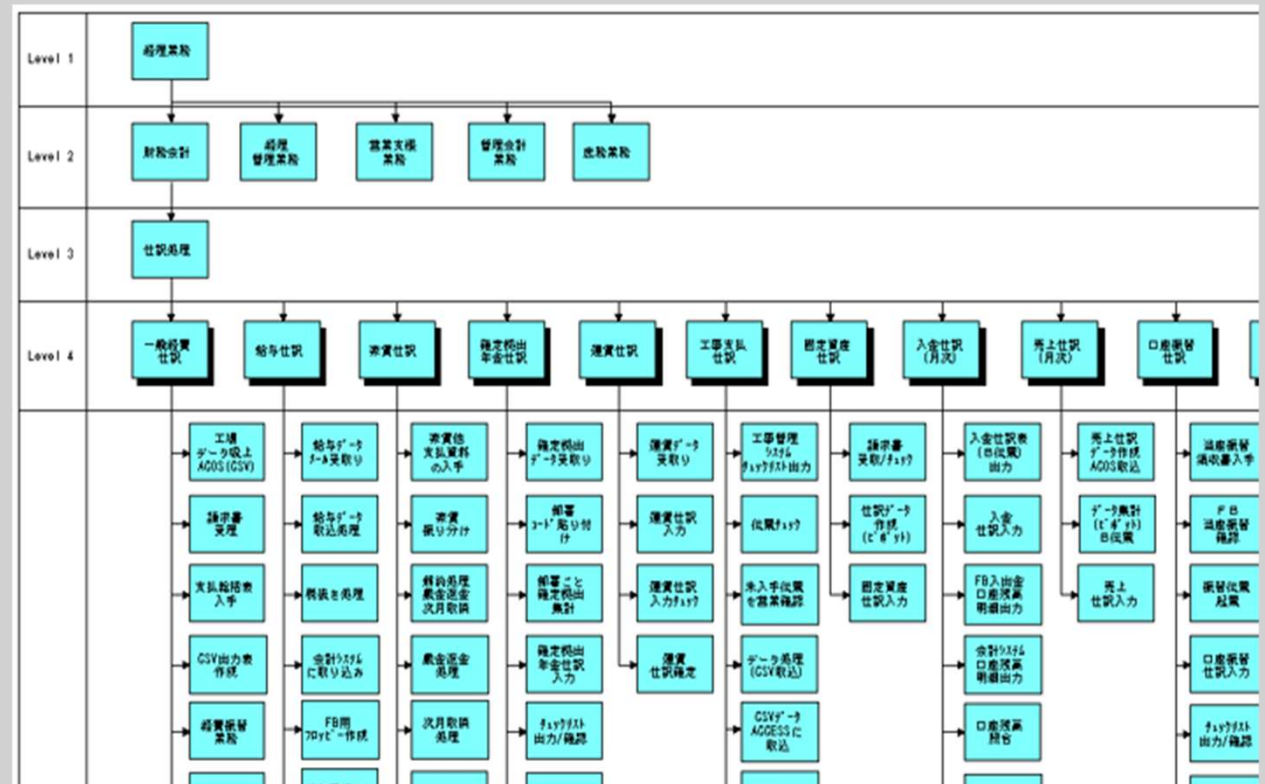
業務

- 業務階層図
- 構造的認識
- 粒度
- 認識共有

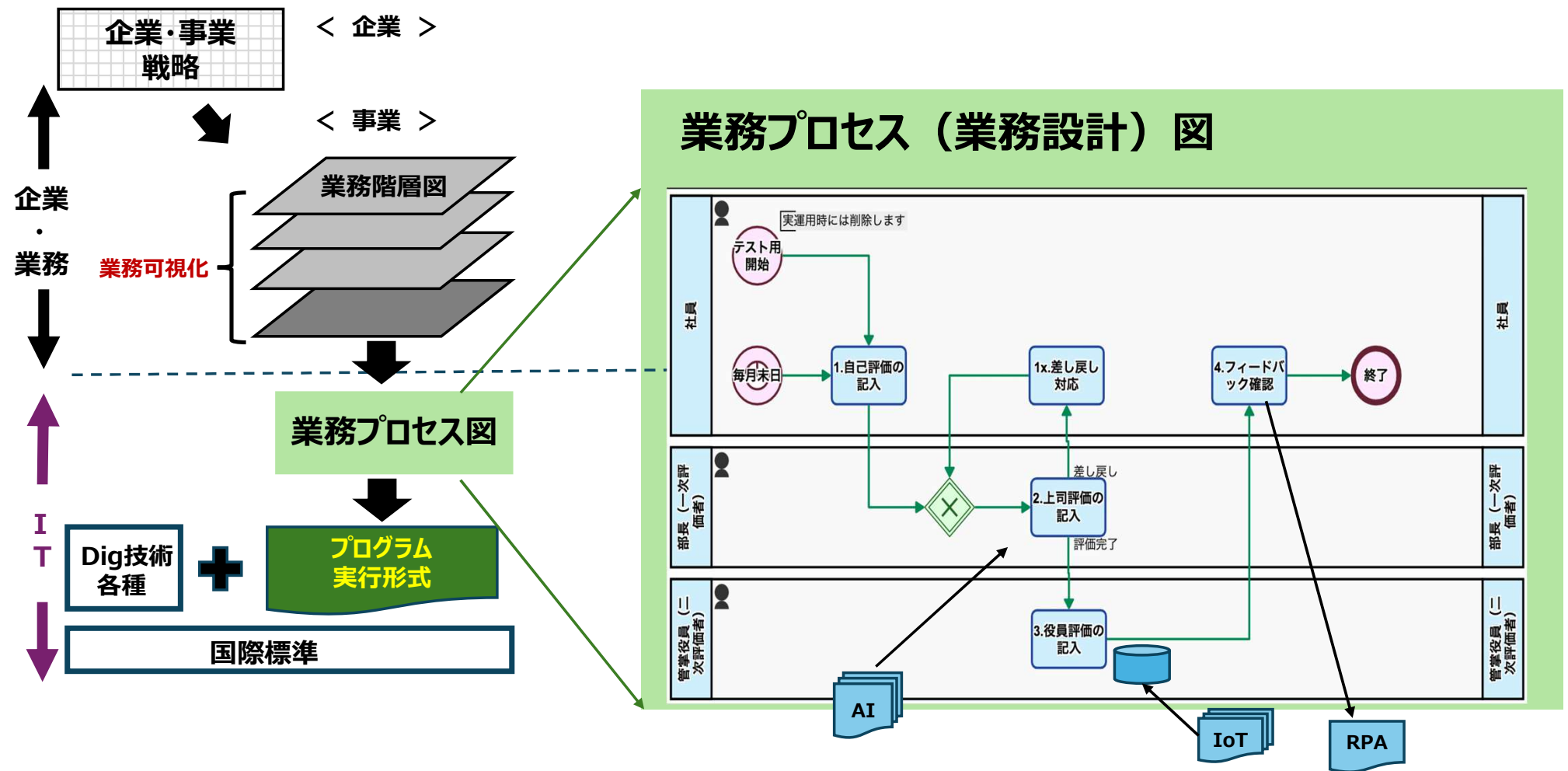
業務の現実

- 属人的、誰も知らない
- 全体把握なし
- 業務可視化から程遠い

〇〇部 業務階層図

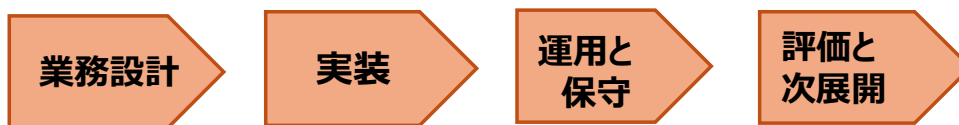


業務可視化 業務プロセス図と開発の連携

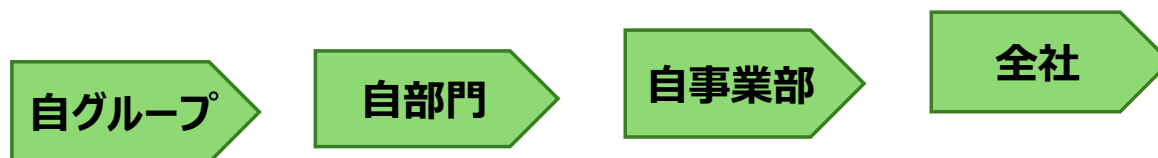


3. DX 導入展開の手順/型

- ・ステップ : DX導入・実装そして運用までの
PDCA実行ステップ



- ・ステージ : DX導入から **全社展開までの展開ステージ**



2. DX実践の手順ステップ°

例) RPA

Step-1	プロジェクト発足	Step-11 Step-12	プロジェクト立上げ 計画書作成
Step-2	業務設計	Step-21 Step-22	外部企業選定 業務選定・設計
Step-3	RPA実装	Step-31 Step-32	実装準備 実装
Step-4	業務運用	Step-41 Step-42	運用開始 保守
Step-5	評価と次展開	Step-51 Step-52	評価 次展開準備

3. 企業内展開と実施手順

	名 称	関係者と 規模	推進リーダ と組織	手法と知財	備 考
Stage-1	自グループ展開	直接上司 数名規模	試行	手法試行 知財蓄積	効果確認・共有
Stage-2	自部門展開	自部門上司 数十名	リーダ活躍 チーム数名	手法活用 知財収集	効果PRを 全社に
Stage-3	他部門展開	他部門上司 数十名以上	他部門リーダ・ チーム育成	同上	同上 DX-COE開始
Stage-4	全社展開	自社経営者 数百名	全社チームと COE連携	手法管理 知財活用	DX-COE活躍
Stage-5	関連企業展開	関連企業 経営者 千名以上	各社に必要 推進者	手法分類 知財分類	

DX推進リーダ と DX推進組織

推進リーダの役割

- ①DX全体推進責任者
- ②DX実践と導入展開手順を修得
- ③関係者間調整を行う
- ④手法・知財・研修の作成・管理・活用

SmallStart

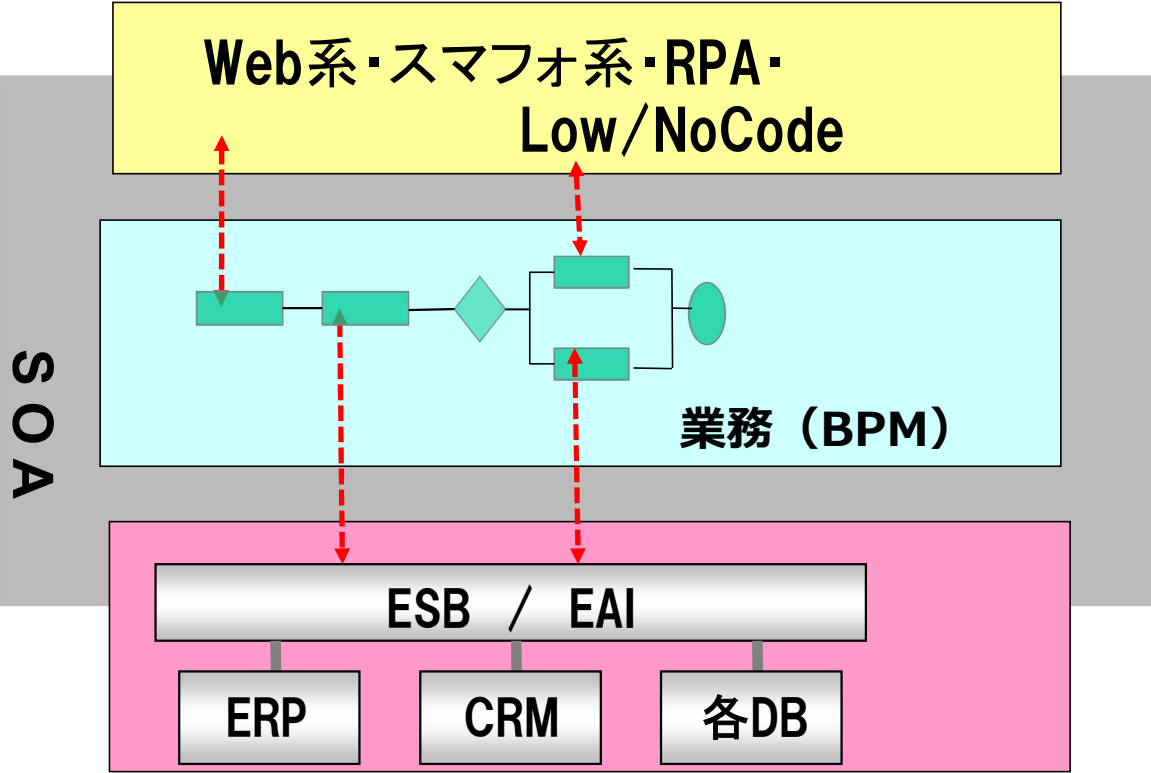
推進組織

- ①推進リーダと推進メンバからなるチーム
- ②社内組織として継続定着させる事が重要
- ③各種手順類をベースに「教育」「実践」
「企業変革」の中核となる

SmallStart

DX実践の常識

業務のタイプ°



業務のタイプ°	手続 変更 頻度	データ 確定度
個人業務	大	小 非確定データ
実現場業務 LOB	大	小 非確定データ
基幹業務 IS部門	小	大 確定データ

Key課題List-1

意見交換 & 深堀

#1		意見交換 & 深堀	業務	組織	育成	技術
K1	守りのDX（内向き）と 攻めのDX（外向き） 何？	①現行業務・新業務 ②新Bizモデル ③関係者 ④攻DX、従来守DXとやり方の違い -社内組織 -外部接点 -ITシステム				
K2	業務の改善・改革・創出 その関連と無関連	①3つの違い ②自然とUpはしない ③改善⇒改革⇒創出 何をaddする必要があるのか ④最初から創出からでOK？ ベンチャvs既存企業				
K3	それぞれは「違う」、 でも「共通部」有り。？	①複雑混沌⇒整理(合理的に)⇒共通⊕差異⇒基盤 ②思考の訓練 思考/行動/運命 ③多様性の時代				
K4	製造業、改善の余地少ない は、本当か？	①その真偽、そして思考⇒行動				
K5	データが大切！ とは何か？	①その意味は？ ②データが活用できないとは？ ③活用できるようにする為に、何が必要？				
K6	組織の構造化@DX時代、 組織の連携vs分断	①構造化の利点・欠点 ②連携の必要性 ③分断の理由 ④分断防止策				

Key課題List-2

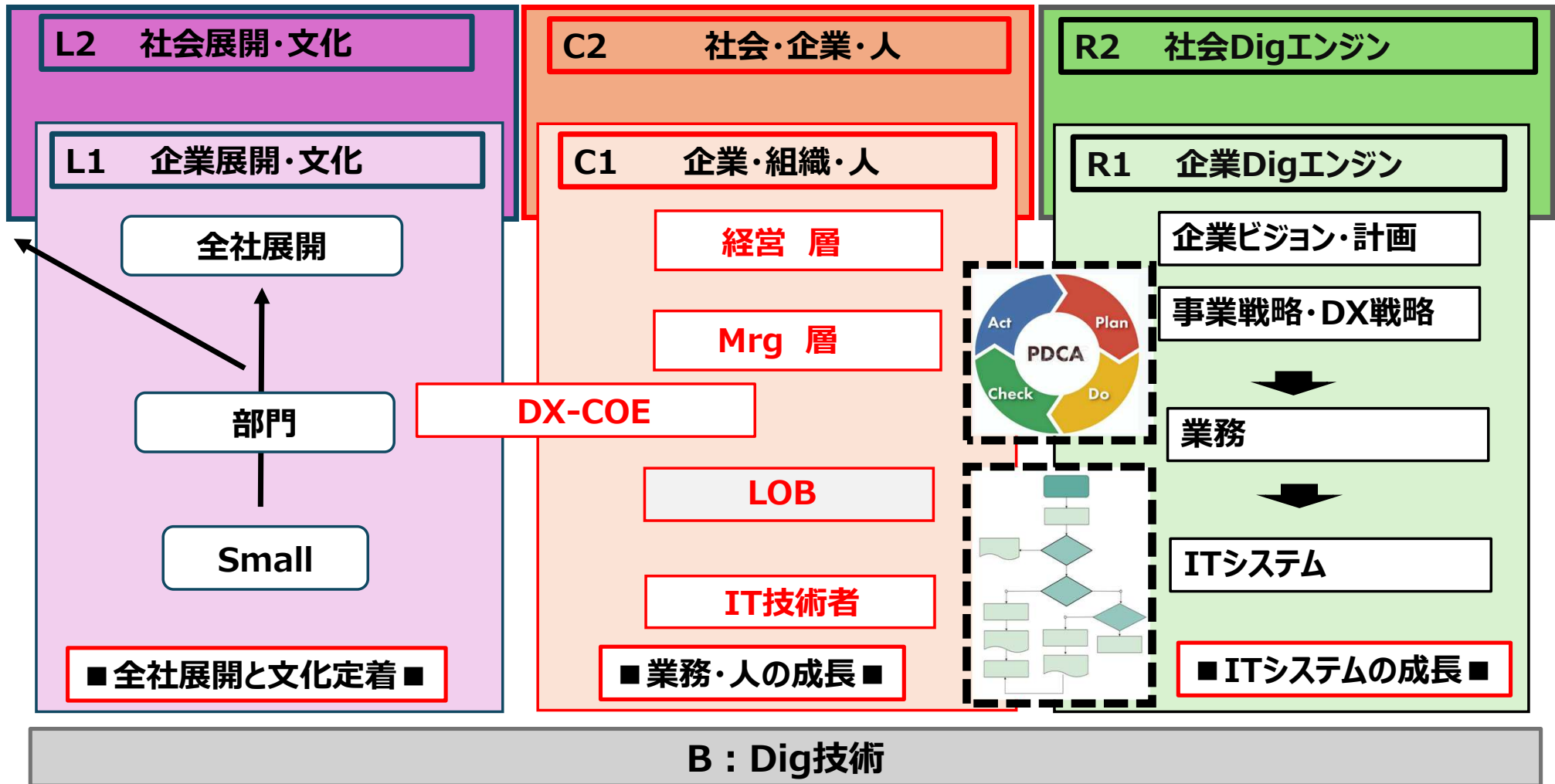
深堀 & 意見交換

#2		考察視点 一例	業務	組織	育成	技術	
K7	「モノ」売り から「コト」売り に 「データのコト」 売り						
K8	開発力 ①開発力のup ②Global開発力						
K9	組織変革・自社文化風土変革 ∴ 新Bizモデル創出・戦略立案・基盤強化						
K10	Dig視点でビジネスを考える人材育成						
K11	同志の仲間集め						
K12	「深化型」・「探索型」双方必要 ①相互肯定は？ ②「探索型」の評価は？						

1. DX実現 構造体

231104
©BPM-Lab

U : 新価値社会



外部講師による講演：

「業務の可視化」 業務改善の初めの一步

-可視化手順とツール：BPEC

@Video

梁田憲治/Bp-Designers社

-実例 BPEC使用体験談

川上/バンダイナムコビジネスアーク社

-業務プロセスの可視化と改善例

@Video

土方雅之/カレントカラー社

第Ⅱ期 24/10-25/03

■ 第Ⅱ期 開催日程と活動内容

#	開催日	会場	プログラム内容概要	
1	241011 /金	機械振興会館507	自己紹介	DRC-1 概略紹介
2	241101 /金	室応接	DXの定見	
3	241122 /金	507	DXの常識	
4	241213 /金	507	①現場活動の要件/山田	①メンバーHour
5	250110 /金	JBD秋葉原事業所	②BABOK概要/清水	②メンバーHour
6	250124 /金	新RRI@高田馬場	③IOT活用実践/古寺	③メンバーHour
7	250214 /金	同上	④Agile・DevOps/原	
8	250307 /金	同上	④メンバーHour	⑤メンバーHour
9	250328 /金	同上	⑤Low・NoCode/加藤	⑥経営工学視点/高梨
10	250509 /木	同上	まとめと第Ⅲ期方向とDX実行体系案 の紹介	

第Ⅱ期 外部識者講師

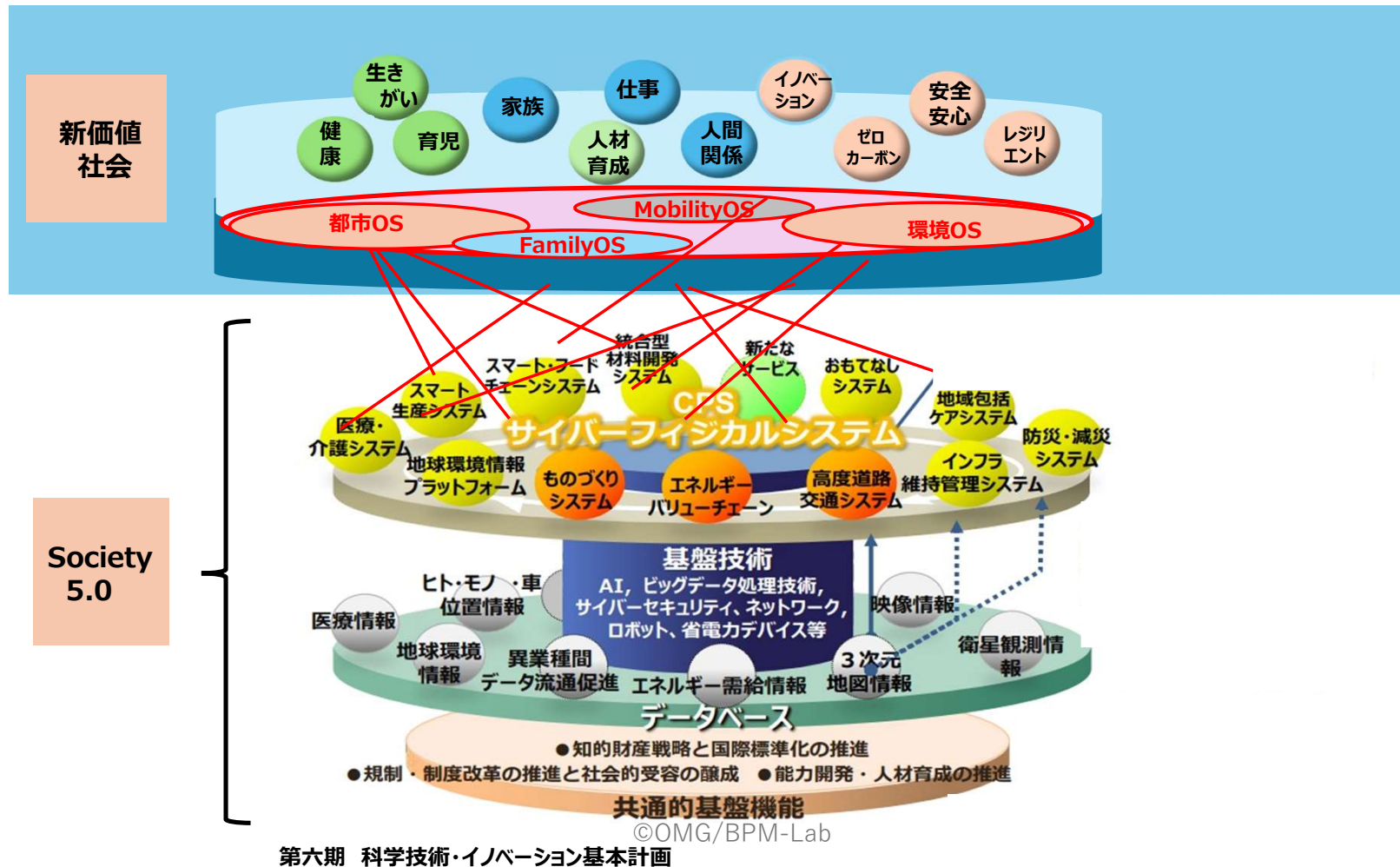
1	現場活動の意味	山田 裕美	Abc協会	
2	BABOK BAナレッジ	清水 千博	(株) KBマネジメント	
3	IOT ソフト	古寺 雅弘	タイムマシーン (株)	
4	Agile・DevOps	原 清美	(株) アイラーニイング	
5	LowCode・NoCode	加藤 慎吾	(株) JBD	
6	経営工学	高梨 千賀子	東洋大学 経営学部	

DX関連領域

広範囲で多岐に渡る

DXの関連語		事業変革・創出	社会新潮流
デジタル・ディストラクション 第四次産業革命 Industry 4.0 Industrial Internet スマート コミュニティ Society 5.0 Cyber Physical System シングラリティ エコシステム	社 会	デザイン思考・論理思考 システムズエンジニアリング イノベーション・BMC PDCA・OODA データサイエンス	仮想通貨・ブロックチェーン 信頼スコア VR/AR/MR/SR SDGs・CX・Teal組織 シェアリング・サブスクリプション マatching・メタバース デジタルツイン・エコシステム Web3.0
	経 営		
	業 務	ITシステム	
	IS 部	データ連携基盤 SOE・SOI CRM・CMS・SMS ERP・SC・HCM BPM・BPA・RPA	
	ITSys	IT新要素技術	
		IOT・EdgeComputer AI・ロボット Security CPU・GPU	ITシステム構築技術
			ITArchitecture Platform Agile・DevOps・ALM LowCode Cloud・API・OSS マイクロサービス・コンテナ ITサービスマネジメント

DX、そしてSociety5.0・新価値社会



都市 OS の スマートシティリファレンスアーキテクチャ

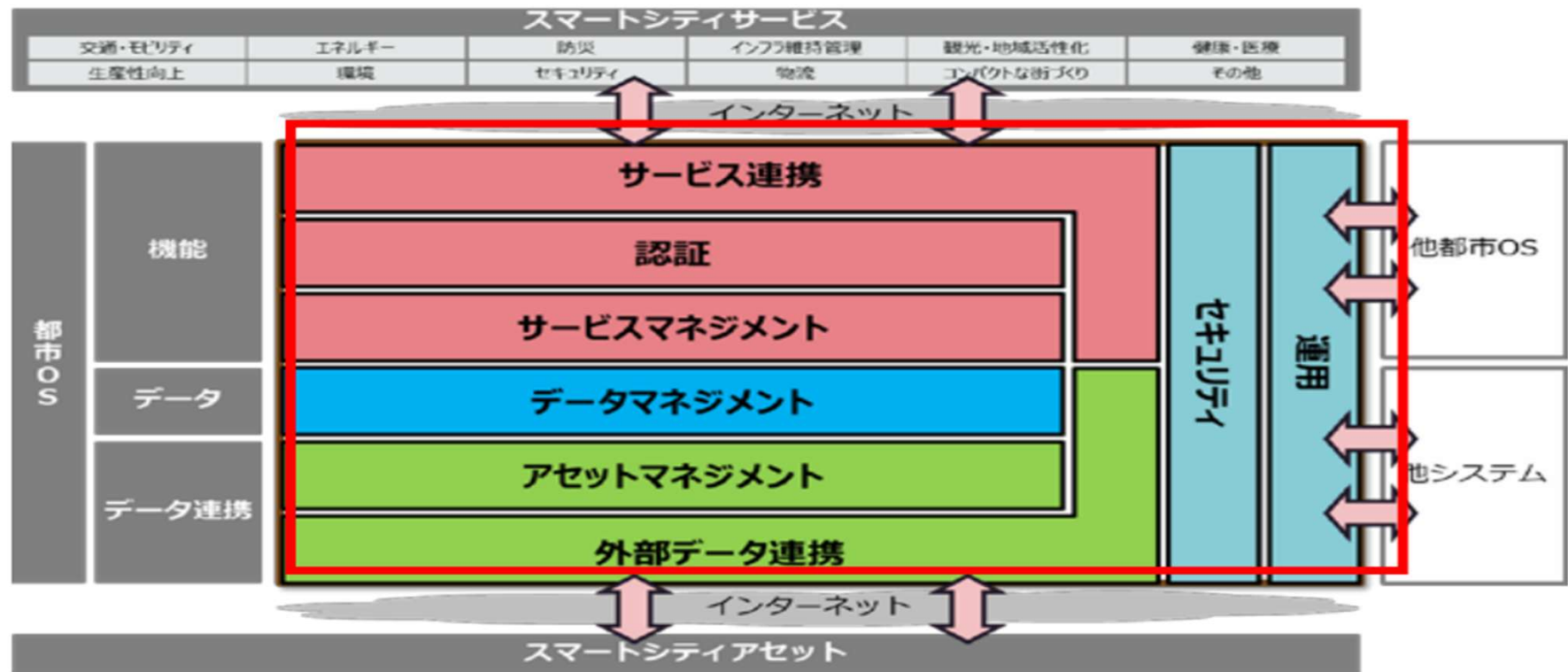


図 7.1-12 都市 OS の全体像

DX実践への5つのルール

- R-1 小さくスタート、徐々に拡大
- R-2 導入時から展開の全体像をイメージする
- R-3 関係者間のコミュニケーションが重要
- R-4 功を急がずじっくりと、時に失敗有り
- R-5 DX推進リーダと推進組織(COE) が重要

SDGs考察 on社会@DX曼荼羅

SDGs CLUB 紹介

日本ユニセフ協会

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/about/>





経済



社会



自然資本



第Ⅲ期 25/10-26/03

2. DRC-Ⅲ 日程表

#	開催日	プログラム内容概要	
1	251010・金	DRC経緯概要・各自己紹介	「DXの定見」 紹介
2	251107・金	自己紹介・Ⅲの今後プログラム	「DXの常識」 紹介
3	251128・金	①スマートダッシュボード紹介/メンバー	②自工場の実例/メンバー
4	251219・金	①「OSS自社事例」 大釜/住友電工	③DX自部門取組/メンバー
5	260116・金	②「リコーの取り組むプロセス中心のDXアプローチ」 浅香/リコー	
6	260210・火	③「DX推進への提言」 山口/ダイテック	④第三者認証について/メンバー
7	260227・金	④加速する企業間データ連携/メンバー	⑤情報Sysのアーキテクチャ論 明神
8	260327・金	⑥DXとDynaCapability 高梨/東洋大	DRC-Ⅲまとめ
RRI事務所 : 新宿区高田馬場1丁目31-18 高田馬場センタービル 12階			

3. 外部講師

1	OSS	大釜 秀作	住友電工	日本OSS推進フォーラム 理事
2	デジタルサービス提供	浅香 孝司	リコー	デジタル戦略部 プロセス・IT・データ 統括 統括長
3	DX推進への提言	山口 純治	ダイテック	業務DX本部 本部長
4	DXと DynamicCapability	高梨 千賀子	東洋大学	経営学部 教授
5	情報SysのArc論	明神 知	北海道情報大	経営情報学 名誉教授

4. DRC-Ⅲ活動 まとめ

1. メンバー自社活動発表

- ・各発表から他社のDX設定対象・課題・課題対応等の多様さの疑似経験
- ・自社との比較
- ・共有対象の発見 対象 : データ連携基盤
多様な視点・議論から 対象の全体像の輪郭イメージ

2. 外部講師発表

- ・実践コンサル&コーチング系 DX実践の要点
業務視点の重要性
IT部門と現場の間の部門・経営と現場の間の部門
AIの企業内展開も
- ・経営学視点 組織論視点、脳科学視点 DX実現に共通する点多数

3. DRC-Ⅳ活動 への継続テーマ グループ研究活動/分科会

- ①「業務変革ワーキンググループ」 中津/島津製作所
- ②「データ連会基盤研究」 伊藤/新川電機

第Ⅳ期 26/10-27/03

PR

1. DRC-IV 開催までの日程概要

2026	DRC-IV	DRC-III	
6月	DRC-IV 準備会	DRC-III	
7月		DRC-III 報告書	
8月	DRC-IV 新メンバー募集開始	DRC-III 報告会実施	
9月	DRC-IV 開催通知		従来資料の公開
2027 10月	DRC-IV #1 開催		
	} 全 8 回		
12月			
3月	DRC-IV #8 最終回		

DRC-IV 活動予定 紹介

■ 従来 定番内容

- ① 自己紹介 自社のDX状況課題
- ② DXの定見
- ③ DX実践の常識
- ④ 分科会 選定&活動
- ⑤ メンバー・外部講師 発表

■ 分科会活動 グループ研究活動

- ① 「業務変革研究ワーキンググループ」 中津 裕太郎
株式会社島津製作所
総合デザインセンターセンター長
- ② 「データ連会基盤研究」 伊藤 祐治
新川電機株式会社 常務執行役

END